

令和8年度 第1回 学校運営協議会 議事録

1. 日時 令和8年5月14日(木) 午前9時30分～午前11時30分

2. 場所 伊豆田方分校 パソコン室(田方農業高校北館2階)

3. 出席者

委員(敬称略)：鈴木隆臣(会長)、大沼裕幸、更家優和、渡邊尚子、岩田聡志、三宅英二、内山智尋(中途退席)
学校側：若杉友美(校長)、中村光宏(副校長)、岡山昌義(部主事)、柚岡由紀(教務課長)

4. 議事内容

(1) 開会・校長挨拶

若杉校長：本校が文部科学省の「インクルーシブな学校運営モデル事業」の最終年度であることを重く受け止め、「共生・共育」の推進に全力を注ぐ。地域や田方農業高校に支えられている実感を大切に、委員の知見を教育活動に反映させたい。

(2) 議題1：令和8年度 学校経営計画概要等の説明および承認 中村副校長より、ランドデザインに基づき以下の4つの柱が説明され、承認された。

安全：人権尊重に基づき、特に大雨被害等の地域特性を踏まえた防災学習を強化する。

専門：生成AIを活用し、「個別の指導計画」の素案作成を効率化する。これにより、教員がAIの案をもとに生徒一人ひとりに最適な指導内容を「熟議」する時間を確保する。

連携：田方農業高校との交流を継続し、本年度も計30回以上の「交流及び共同学習」を予定。

チーム：教職員同士がアサーティブに伝え合い、認め合う組織文化を醸成する。

質疑応答・意見交換(議題1)

【岩田委員】卒業生がSNS等での人間関係(金銭トラブル、恋愛、ストーカー的行為)に直面する事例を共有。

→学校側回答：リスク管理は卒業後の社会生活に直結する重要課題。SHRや道徳、自立活動の授業を通じて、消費者教育やSNSの適正利用を反復継続して指導する。

【内山委員】交流活動を回数(量)だけで評価せず、生徒の変容(質)をどう捉えるべきか。

→学校側回答：田方農業高等学校のカリキュラムマネージャーと協働して「深い学び合い」へ質的に改善する仕組みを構築中である。

【鈴木会長】生成AI活用の具体的なプロセスについて。

→学校側回答：県の統一ツールを使用。学習指導要領や発達段階のデータをAIに読み込ませ、アシストツールとして活用する。

(3) 議題2：協議「学校の魅力発信、地域との協働について」学校の取り組みを地域に周知し、共生社会の実現に向けた具体的方策が話し合われた。

<各委員からの具体的提案・意見>

【岩田委員】

・三島総合病院のプランター整備において、分校生が以前制作した看板を、今後も使用できるようにリニューアルしている。

・私共の事業所を利用している分校卒業生を「講師」として招き、在校生へアドバイスを送る、あるいは保護者向けに進路講話を行う連携の提案。

【渡邊委員】

・就学前の保護者は「将来働けるのか」を最も不安に思っている。具体的な就職先で働いている姿を写真等で視覚的に

示すなど、保護者向けの分かりやすい広報資料が必要。

【更家委員】

- ・道の駅での陶芸・木工作業製品は非常に人気が高く、数日で完売する。
- ・「エス・ウェルフェス」等の大型イベントでの対面販売や、新たな受託作業（袋詰め、紙作業等）の提供を検討したい。

【大沼委員（塚本区長）】

- ・公民館や満宮神社の清掃活動に生徒が参加することを歓迎。地域住民との顔の見える関係作りに繋がる。
- ・11月の区民祭（文化祭）での作品展示や、駐車場での野菜販売を具体的に打診。

【三宅委員（PTA 会長）】

- ・将来の自立に向け、生徒が地域社会に出て、対面で人と付き合う経験を積める今の取り組みを継続・拡大してほしい。

【鈴木会長】

- ・小中学校の保護者は、分校に対して誤ったイメージを持つ場合がある。正しい学校情報の早期提供が、生徒の将来の安心感に繋がる。

(4) 決定事項および今後のアクション

情報発信：地域の理解促進のため、「学校だより」を塚本区の自治会回覧板に同封して配布することを決定。
（令和8年度より開始）

地域活動：清掃班の活動範囲として、近隣の公民館、神社、伊豆箱根鉄道の駅清掃などを前向きに検討する。

広報の充実：SNS (Instagram) の活用や、相談支援事業所向けの学校パンフレットの配置を進める。

(5) 諸連絡

第2回(8月6日)：防災教育の充実等を協議テーマとする予定

第3回(9月29日)：田方農業高校学校運営協議会と合同開催

以上、議事の経過と結果を記録する。

令和8年5月14日 記録者：教務課長 柚岡由紀